

# 猪野遺跡

—マンション建設に伴う発掘調査報告書—

1994

大分市教育委員会

## は じ め に

大分市教育委員会では、文化財が大分の先人の活動の足跡を示すかけがえのない文化遺産であることを主旨に、この保護、保存に努力を傾けているところでありますが、とくに埋蔵文化財につきましては、公共、民間など各種の地域開発とのかかわりから、文化財保護法に沿ってその調査の推進をはかってまいったところであります。

本報告書は、大分市大字猪野栗流（猪野遺跡）における、株式会社山忠商店の開発事業にかかわる発掘調査記録であります。本報告書が、大分市域の埋蔵文化財の調査、研究、ならびに活用に新たな成果をもたらしましたことをおおいな喜びといたし、また調査に際し、株式会社山忠商店をはじめ、関係者の皆様に多大なご理解とご協力をいただきましたことに謝意を表しまして、発刊のことばといたします。

平成 6 年 3 月

大分市教育委員会

教育長 清 瀬 和 弘

## 例 言

1. 本書は、マンション造成に先立ち、山忠商店株式会社の委託を受けて、大分市教育委員会が平成5年度に実施した、大分市大字猪野字栗流668-4番地に所在する、猪野遺跡の発掘調査報告書である。

2. 調査組織は、次のとおりである。

調査主体 大分市教育委員会

調査責任者 大分市教育委員会 教育長 清瀬 和弘

事務局 内田 司 (大分市教育委員会事務局次長兼文化振興課長)

秦 政博 ( 同 上 文化振興課 参事)

宮崎 英雄 ( 同 上 文化財室 室長)

佐藤 良蔵 ( 同 上 文化財室 主査)

村山 貴子 ( 同 上 文化財室 主事)

佐藤 亜紀 ( 同 上 文化財室 臨時職員)

調査員 讃岐 和夫 (大分市教育委員会文化振興課文化財室 主任)

整理作業員 堤 美智代 (大分市教育委員会文化振興課文化財室 臨時職員)

調査作業員 阿部花代、岩本みや子、江藤サカエ、江藤艶子、江藤美代子、児玉トミ子、後藤幸子、坂本久美、波田野君代、増本文子、丸井和子、山口辰子、山田ツル子

3. 整理期間中に坪根伸也、渕野玲子、中村めぐみ、阿部真知子 (大分市教育委員会文化振興課文化財室) の協力を得た。

また、陶磁器については吉田寛 (大分県教育庁文化課) の教示を得た。

4. 本文の執筆は秦政博、讃岐和夫がおこなった。なお、執筆分担は下記の通りである。

第V章 秦 政博

第I～IV章 讃岐 和夫

5. 調査期間中には、山忠商店株式会社の部長最上恒美氏と課長工藤從二郎氏の全面的な協力をいただいた。記して感謝の意を表す次第であります。

## 本文目次

|               |    |
|---------------|----|
| I 調査の経過       | 1  |
| II 遺跡の立地と環境   | 1  |
| III 遺跡の概要     | 4  |
| 1) SK-11遺構、遺物 | 10 |
| 2) 溝状遺構 (SD)  | 13 |
| IV まとめ        | 17 |
| V 付章 中世の猪野    | 18 |

## 挿図目次

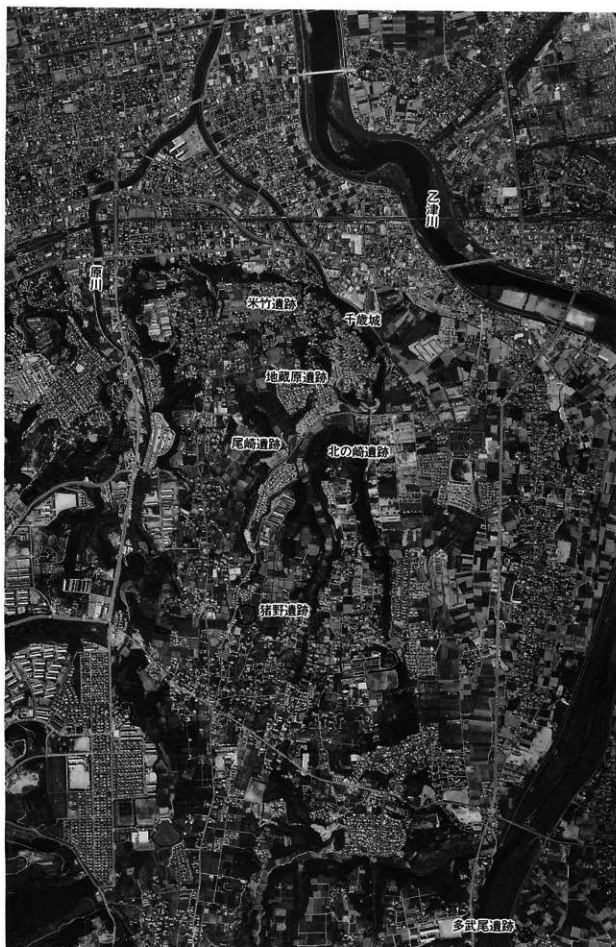
|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| 第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡                                  | 2  |
| 第2図 猪野遺跡配置図 (1/5,000)                            | 4  |
| 第3図 遺構配置図 (1/200)                                | 5  |
| 第4図 SK-1, 2, 3, 4, 6, 7, 8, 9, 10平面、断面実測図 (1/40) | 7  |
| 第5図 SK-12, 13, 14, 15, 16平面、断面実測図 (1/40)         | 8  |
| 第6図 SK-17, 18, 19, 20, 21, 22平面、断面実測図 (1/40)     | 9  |
| 第7図 SK-11平面、断面実測図 (1/10)                         | 10 |
| 第8図 SK-11遺物実測図 (1/4)                             | 10 |
| 第9図 SK-SX内遺物実測図 (1/4)                            | 11 |
| 第10図 SD-1, 2平面、断面実測図 (1/80)                      | 14 |
| 第11図 SD内遺物実測図 (1/4)                              | 15 |

## 表目次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 表1. 遺物の位置と周辺の遺跡名      | 3  |
| 表2. 猪野遺跡SK一覧表         | 6  |
| 表3. 遺物一覧表 (SK, SX内遺物) | 12 |
| 表4. 遺物一覧表 (SD内遺物)     | 16 |

## 図版目次

|                |    |
|----------------|----|
| a. 猪野遺跡周辺の航空写真 |    |
| b. 遺構全景        | 5  |
| c. SK-11の検出状況  | 10 |
| d. SK-11の遺物    | 10 |
| e. SDの全景       | 13 |
| 図版1. 遺構        | 20 |
| 図版2. ♫         | 21 |
| 図版3. ♫         | 22 |
| 図版4. ♫         | 23 |
| 図版5. 出土遺物      | 24 |



a. 猪野遺跡周辺の航空写真

## I. 調査の経過

マンション建設地である、大分市猪野字栗流の申請地は、周知の猪野遺跡に属するものであるため、平成5年4月16日にトレンチによる試掘調査を実施した。その結果、弥生時代の遺構、遺物を確認したため、ただちに大分市教育委員会は、業者の代表と遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、約3,000㎡のうち、駐車場になる部分は遺構が保存できるため、マンション建設部分の約600㎡について本調査をするという結論に達した。

本調査は平成5年5月31日から6月25日にかけて実施した。5月31日は重機による表土剥ぎ作業、6月1日から発掘作業員13名で遺構検出作業、この作業により弥生時代の貯蔵穴や柱穴群、溝状遺構を検出した。これ以後実働12日間にかけて遺構の検出作業、遺構の実測作業、遺構写真撮影等をおこない、6月25日に調査を終了した。

## II. 遺跡の立地と環境

猪野遺跡は、市街地より約5.5km南東方、大野川支流の乙津川河口より約4km上った左岸の標高40m前後の鶴崎丘陵部に位置しており、大分市大字猪野字栗流に所在する。

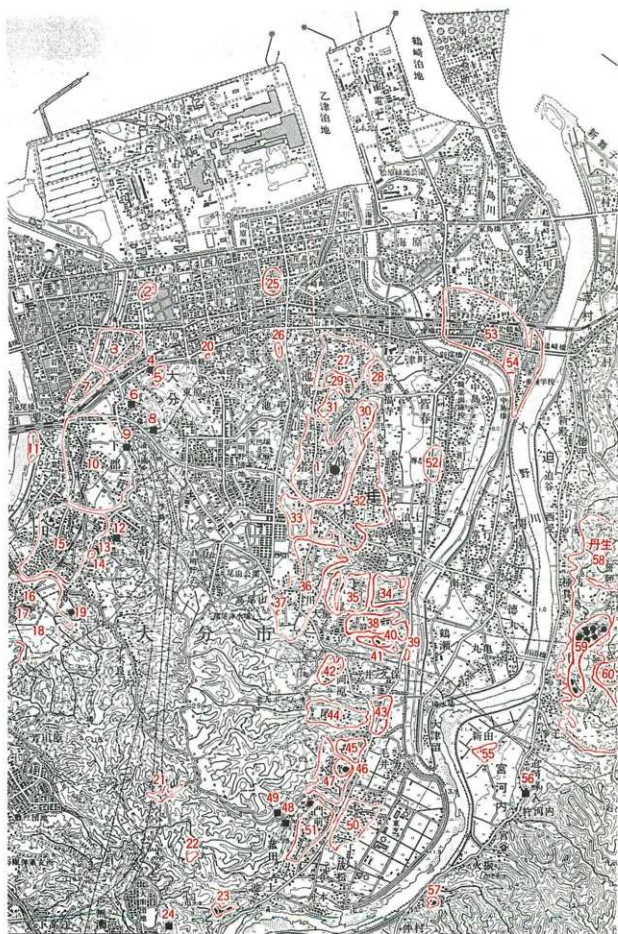
この地域周辺は、これまでの新産業都市建設の進展に伴う急激な人口の増加と都市化により、宅地化が進んでおり、明野団地をはじめ小池原、明治北団地等多くの団地が造られており、そのかわりに遺跡が消滅してきた。

当遺跡の周辺にも、数多くの遺跡が所在しており、歴史的に遺跡をみていると、旧石器時代に比定される遺跡としては丘陵の北側に接して尾崎遺跡、地藏原遺跡と横尾地区の多武尾遺跡から弥生時代遺構の埋土中よりナイフ形石器、搔器、石核等数点の石器が出土しているが、いずれも資料数が限られており出土状況ははっきりしていない、しかしこの地域は今後も旧石器の発見が期待できる地理的環境の場所である。また、鶴崎丘陵の東側、大野川を挟んで対岸に位置する丹生台地は昭和37年以来、前期旧石器論争を展開した著名な地域である。

縄文時代の遺跡は数少なく、低地で自然堤防上に立地して後期の西平式、三万田式土器を出土させた牧六分遺跡がある。遺跡は加納J R 操車場と裏川の間に位置している。また牧六分遺跡より南側に下郡遺跡がある。この遺跡は福田K2式、西平式、小池原式等の後期の土器が多量に出土している。台地上では、横尾地区の多武尾遺跡、小池原地区の地藏原遺跡がある。弥生土器に混入して縄文後期の土器が出土しているがとくに明確な遺構を確認されていない。遺跡の存在は貝塚によって明らかにされている。縄文後期の磨治縄文土器で1～5式までの小池原式土器を設定した小池原貝塚（現在消滅）と縄文前期から後期にかけての土器と埋葬施設や土壇等の遺構を確認している横尾貝塚がある。貝塚は丘陵の下に位置しているため、その丘陵上に縄文人の生活基盤である遺構を発見することができよう。

弥生時代では、当遺跡の北側に弥生中期の貯蔵穴群、堅穴住居跡と弥生後期の環濠集落の遺跡である米竹遺跡、弥生中期から後期の集落跡で住居跡より昭明鏡片1点を発見された地藏原遺跡、弥生後期の集落跡で住居跡を27軒を確認し、平面プランが方形よりも円形の方が数が多い尾崎遺跡、その北東側の北崎遺跡では、台地先端にV字溝をもち弥生後期から古墳時代初頭にかけての集落跡で、住居跡の形態が円形から方形へと推移していく状況を示していた。

北崎遺跡の南側は葛木遺跡、米良草遺跡、二目川遺跡、横尾遺跡が続く、また高尾山の水分神社境内において銅矛2本を出土しており、御神体として祭られていると伝えられている。横尾地区の多武尾遺



第1図. 遺跡の位置と周辺の遺跡

跡は、弥生後期の環濠集落遺跡であり、溝内から多量の上器と小銅鐸が発見されている。大野川と乙津川の分岐点の松岡地区にも門前遺跡がみられる。また、弥生前期末～後期までの大規模の集落遺跡である下郡遺跡が大分川右岸の自然堤防上に位置している。この遺跡では青銅製鋳とブタの頭蓋骨を出土させて注目されている。

古墳時代では、5世紀前半と6世紀の型穴住居跡を多く確認した地蔵原遺跡と高塚古墳を有する横尾地区の有田古墳群2基と松岡地区の小牧山古墳群7基のみで、小池原から横尾の間には古墳をみることはできない。有田古墳群の1号墳は径25m、墳頂高3mで葺石を施している。2号墳は小形で径14m、墳頂高1mほどで葺石を施している。この古墳は横尾地区における数少ない唯一の墳丘をもつ古墳であり、有力な豪族の存在を考えられる。また、対岸の丹生台地上には、全長48mの前方後円墳を3基と円墳7基の野間古墳群が所在している。この前方後円墳は古式の様相を示しており、すでに大和政権とつながりをもった首長墓と考えられている。

奈良時代以後は、公的な機能をもつ地蔵原遺跡では奈良時代後半から平安時代初頭の掘立柱建物跡を80棟以上検出しており、建物群の中心的な施設と思われる溝遺構により囲まれた建物群がある。また遺物も多量に出土させており、とくに地域性が強い軒丸、軒平瓦や円面硯等がみられた。また、横尾地区でも同時期の遺物、遺構を検出しており注目される。

中世での遺跡は、尾崎遺跡で掘立建物が4棟が検出している。また小池原古地先端部に千歳城がある。この様に猪野遺跡の周辺には縄文時代から中世にかけて多種多様の遺跡が立地しており、古くから生活場面として大変重要な場所であったことが窺える。

#### 一参考文献一

- 「大分市史 上巻・中巻」大分市 1987年  
 「尾崎遺跡」大分市教育委員会 1984年  
 「多武尾遺跡」大分市教育委員会 1982年  
 「大分県文化財調査報告 第13輯 小池原貝塚」賀川光夫、橘昌信 1967年  
 「横尾貝塚発掘調査概報」大分県教育委員会 1982年  
 「下郡桑苗遺跡」大分県文化財調査報告書第80輯 大分県教育委員会 1990年  
 「大分市埋蔵文化財調査年報1」大分市教育委員会 1990年  
 「大分市埋蔵文化財調査年報3」大分市教育委員会 1992年

表1. 遺跡の位置と周辺の遺跡名

|                 |               |              |
|-----------------|---------------|--------------|
| 1. 猪野遺跡         | 21. 松岡城跡      | 41. 有田遺跡     |
| 2. 松平忠直萩原館推定地   | 22. 京ヶ尾遺跡     | 42. 國原遺跡     |
| 3. 牧遺跡          | 23. 小牧山古墳群    | 43. 清水遺跡     |
| 4. 松栄山横穴墓群      | 24. 戸無瀬横穴墓群   | 44. 松岡遺跡     |
| 5. 高城石棺群        | 25. 高松東遺跡     | 45. 向原遺跡     |
| 6. 下郡横穴墓群       | 26. 小池原貝塚     | 46. 真登石棺     |
| 7. 牧六分遺跡        | 27. 米竹遺跡      | 47. 真登遺跡     |
| 8. 北下郡横穴墓群      | 28. 千歳城跡      | 48. 一の谷南横穴墓群 |
| 9. 穴井前横穴墓群      | 29. 地蔵原遺跡     | 49. 一の谷横穴墓群  |
| 10. 下郡遺跡群       | 30. 北の崎遺跡     | 50. 上松岡遺跡    |
| 11. 大分川河川敷4遺跡   | 31. 尾崎遺跡      | 51. 門前遺跡     |
| 12. 長谷横穴墓群      | 32. 葛木遺跡      | 52. 恵聖寺遺跡    |
| 13. 浦尾百穴横穴墓群    | 33. 米良草遺跡     | 53. 鶴崎町遺跡群   |
| 14. 岩屋遺跡        | 34. 多武尾遺跡     | 54. 鶴崎御茶屋跡   |
| 15. 羽田遺跡        | 35. 横尾下組遺跡    | 55. 新田遺跡     |
| 16. 蛇山横穴墓群      | 36. 二日川遺跡     | 56. 阿蘇入横穴墓群  |
| 17. 綾山山頂遺跡      | 37. 二分神社銅矛出土地 | 57. 大内古墳群    |
| 18. 津守遺跡        | 38. 東中社遺跡     | 58. 丹生遺跡群    |
| 19. 津守古墳        | 39. 横尾貝塚      | 59. 野間古墳群    |
| 20. 高城観音院御寄残出土地 | 40. 有田古墳      | 60. 延命寺遺跡    |

### Ⅲ. 遺跡の概要

調査は、マンションが建築される部分にあたるため、東西方向に長い調査区になっている。調査面積約600㎡の内、遺構の遺存状況が良好な約500㎡について発掘調査を実施した。

遺構は、弥生時代中期後半から後期初頭にかけての土壌（SK）群と柱穴（SX）群また中世および近世の溝状（SD）遺構2条を検出している。

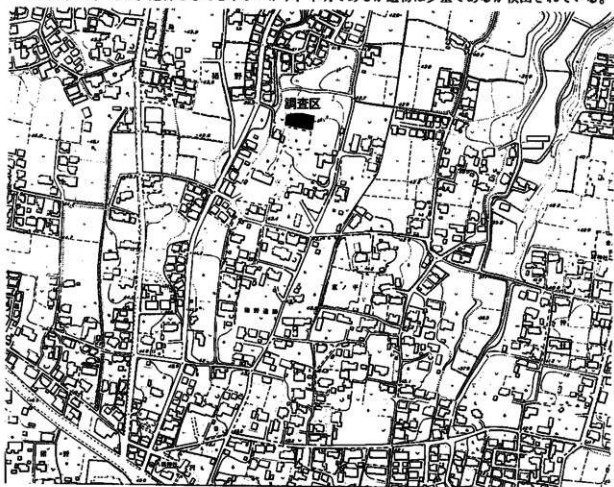
弥生時代の土壌は、平面形が円形、楕円形、方形、長方形を呈しており、円形は12基、楕円形は3基、方形は1基、長方形は6基の計22基を検出している。土壌の用途としては、貯蔵穴と土壌墓および使用不明（遺存状況が不良）のものに分かれる。まず、貯蔵穴になる土壌は、SK-1. 2. 3. 4. 7. 8. 9. 14. 15. 16. 17. 21であり、土壌墓と思われるものは、SK-10. 12. 13. 19とSK-11の土器蓋土壌墓である。

また調査区内の貯蔵穴配置が下郡遺跡群のC区でみられた様に、貯蔵穴群がグループを形成しており、円弧状を描いている様にみられる。

土壌内の遺物は、全体的に皆無に等しいが実測のできたものはSK-1. 3. 4. 6. 8. 12. 19から下城カメラ土器、若干鋤先状になる壺形土器の口縁部とカメラ土器の口径部等が弥生時代中期の破片が出土している。

溝状遺構は、調査区の東側隅に位置している。北東-南西方向に溝は掘られており、調査区に制限があるため溝の半分のみを完掘した。この場所は、畑地の境界にあたるため現在までも使用したことが土層断面でみられる。またSD-1は近世の溝、SD-2は中世に比定できる遺物が出土している。

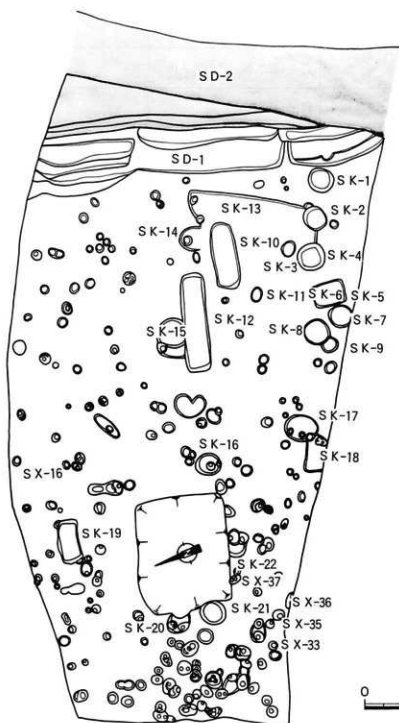
柱穴（SX）群は、建物としてむすびつかず、不明であるが遺物は少量であるが検出されている。



第2図. 猪野遺跡配置図 (1/5,000)



b. 遺構全景 (北西より)

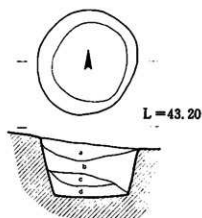


第3図. 遺構配置図 (1/200)

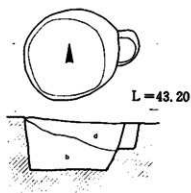
表2. 猪野遺跡SK--覽表

| 遺構番号  | 平面形態           | 遺構規模 (cm)                        | 備考                 |
|-------|----------------|----------------------------------|--------------------|
| SK-1  | 円形 (貯蔵穴)       | 径107、深さ60                        |                    |
| SK-2  | 円形 ( $\phi$ )  | 径110、深さ55                        | SK-13と切合           |
| SK-3  | 円形 ( $\phi$ )  | 径65、深さ40                         | $\phi$             |
| SK-4  | 円形 ( $\phi$ )  | 径115、深さ65                        | $\phi$             |
| SK-5  | 方形 ( ? )       | 残存長100+ $\alpha$ 、深さ20           |                    |
| SK-6  | 長方形 ( ? )      | 長さ135、幅100、深さ10                  |                    |
| SK-7  | 円形 (貯蔵穴)       | 径95、深さ35                         |                    |
| SK-8  | 円形 ( $\phi$ )  | 径115、深さ60                        | SK-9と切合            |
| SK-9  | 円形 ( $\phi$ )  | 径65、深さ20                         | SK-8と切合            |
| SK-10 | 長方形 (土墳墓)      | 長さ285、幅100、深さ50                  | SK-10と切合           |
| SK-11 | —              | —                                | 本文10P              |
| SK-12 | 長方形 (土墳墓)      | 長さ420、幅110、深さ40                  | SK-15と切合           |
| SK-13 | 長方形 ( $\phi$ ) | 残存長550、幅170+ $\alpha$ 、<br>深さ10  | SK-2、3、4、10と<br>切合 |
| SK-14 | 円形 (貯蔵穴)       | 残存径100、深さ50                      |                    |
| SK-15 | 円形 ( $\phi$ )  | 残存径120、深さ45                      | SK-12と切合           |
| SK-16 | 円形 ( $\phi$ )  | 径100、深さ35                        |                    |
| SK-17 | 楕円形 ( $\phi$ ) | 長さ140、幅110、深さ20                  | SK-18と切合           |
| SK-18 | 長方形 ( ? )      | 長さ150、残存幅80+ $\alpha$ 、<br>深さ5   | SK-17と切合           |
| SK-19 | 長方形 (土墳墓)      | 長さ185、幅90、深さ45                   |                    |
| SK-20 | 楕円形 ( ? )      | 残存長100+ $\alpha$ 、深さ12           |                    |
| SK-21 | 円形 (貯蔵穴)       | 径108、深さ30                        |                    |
| SK-22 | 楕円形 ( ? )      | 残存長110、残存幅70+ $\alpha$ 、<br>深さ20 |                    |

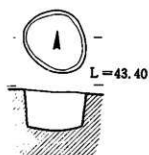
SK-1



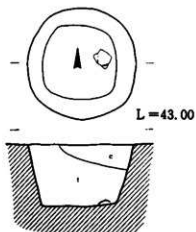
SK-2



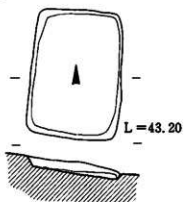
SK-3



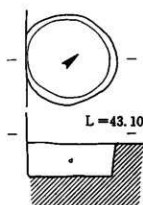
SK-4



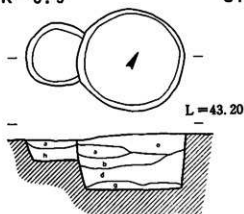
SK-6



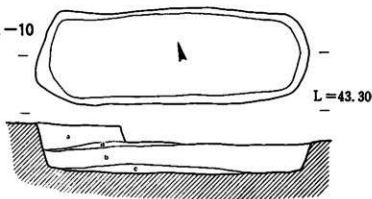
SK-7



SK-8.9



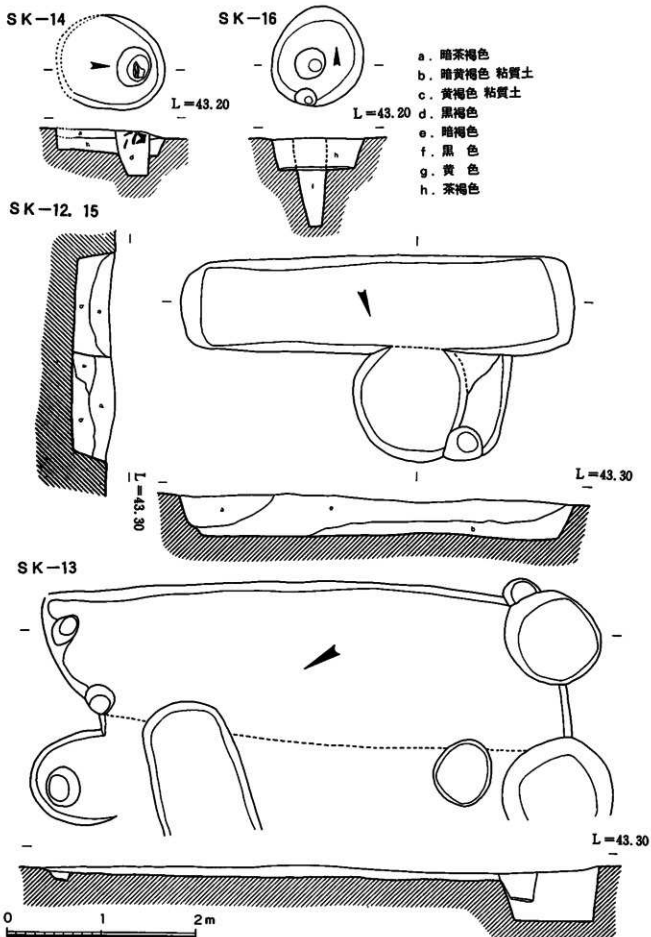
SK-10



- |            |        |
|------------|--------|
| a. 暗茶褐色    | e. 暗褐色 |
| b. 暗黄褐色粘质土 | f. 黑色  |
| c. 黄褐色粘质土  | g. 黄色  |
| d. 黑褐色     | h. 茶褐色 |

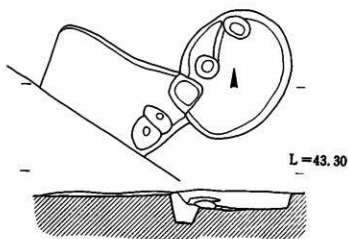


第4图. SK-1. 2. 3. 4. 6. 7. 8. 9. 10平面、断面实测图 (1/40)

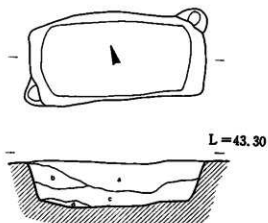


第5圖. SK-12. 13. 14. 15. 16平面、断面実測圖 (1/40)

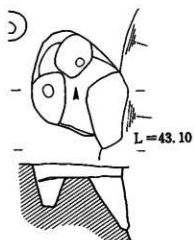
SK-17. 18



SK-19

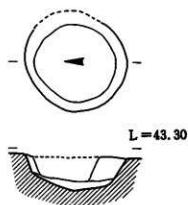


SK-20

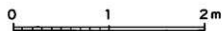
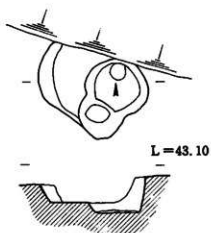


- a. 暗茶褐色
- b. 暗黄色
- c. 暗黄褐色
- d. 暗黑色

SK-21



SK-22



第6图. SK-17. 18. 19. 20. 21. 22平面、断面实测图 (1/40)

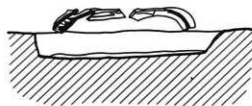
# 1) SK-11 遺構・遺物

調査区の南東側、SK-10の南西に位置する、弥生時代後期初頭の土器蓋土墳墓である。土墳墓の規模は、現状での直径50cm、深さ7cmほどを測る。平面形は円形を呈している。その上面に壺形土器を半載したものを覆いかぶせたものである。この土器蓋土墳墓は小形のため、小児用に使用したと思われる。

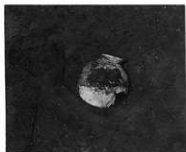
土器蓋土墳墓に使用した土器は、半載であるが、復元が可能であった。

壺形土器である。口縁部は外反しながら若干内湾気味に立ち上がり、器壁は頸部よりも口唇部の方が厚くなっている。頸部には断面三角形突帯を2条めぐらし、突帯下位には勾玉浮文が貼付られており、浮文は2個単位で現状は3ヶ所残っており、割付をしてみると5ヶ所に施されていると思われる。胴部は球形に近く、断面三角形突帯を3条胴部最大に張る部分の上位と下位の2ヶ所にめぐらしている。底部は欠損しており不明であるが、丸底気味の底部であろう。

器面調整は、口縁部から頸部にかけて内外面共にヨコ方向ナデ、頸部の内面には指オサエがある。胴部の外面は刷毛目と一部ナデ消し、突帯はヨコナデ、内面はナデを施している。胎土は石英粒子、長石粒子を含んだ微粒子である。色調は外面で黄色一部黒色（黒斑）、内面は暗茶褐色を呈している。器壁は薄く焼成も良好である。弥生時代後期初頭の時期に比定されよう。



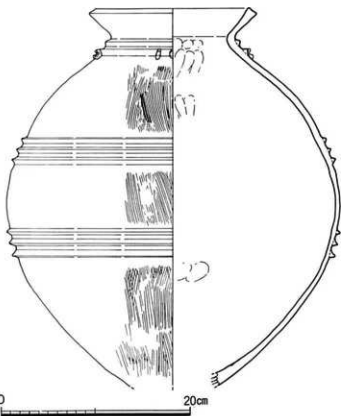
第7図. SK-11平面、断面実測図 (1/10)



c. 掘出状況 (南西より)

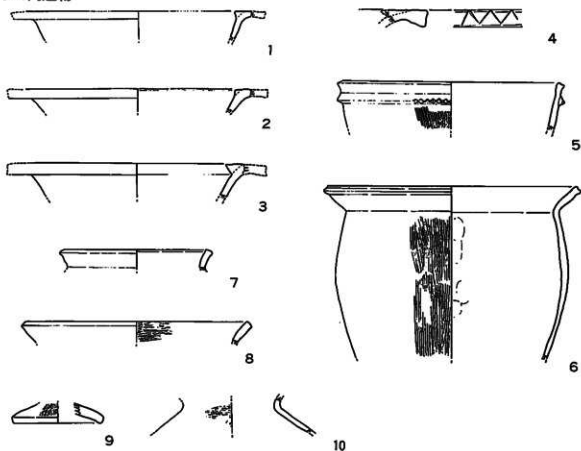


d. SK-11の遺物

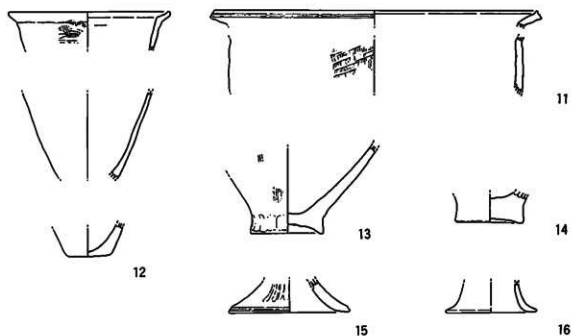


第8図. SK-11遺物実測図 (1/4)

SK内遺物



SX内遺物



0 10 20cm

第9図. SK・SX内遺物実測図 (1/4)

表3 遺物一覧表 (SK, SX内遺物)

| 遺物<br>番号 | 探<br>査<br>区<br>画 | 出<br>土<br>区<br>域 | 器<br>種   | 胎土          |     | 色調   |         | 器面調整           |                       | 法 量 (cm)     |    |        |        | 備考                                                       |
|----------|------------------|------------------|----------|-------------|-----|------|---------|----------------|-----------------------|--------------|----|--------|--------|----------------------------------------------------------|
|          |                  |                  |          | 混和材         | 粒 子 | 内 面  | 外 面     | 内 面            | 外 面                   | 口径           | 器高 | 底径     | 底径     |                                                          |
| 1        | 9                | SK-1             | 壺        | 角閃石         | 細粒  | 暗黄褐色 | 暗黄褐色    | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | 内径<br>(20)   | -  | -      | -      | 口唇部欠損、破片、口縁上面を平坦面にし、内面は三角形に突出させている。                      |
| 2        | ◆                | SK-6             | 壺        | 角閃石         | 細粒  | 暗黄色  | 暗黄色     | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | 内径<br>(20)   | -  | -      | -      | 口唇部欠損破片、口縁上面を平坦面にし、内面は若干三角形に突出させている。                     |
| 3        | ◆                | SK-12            | 壺        |             | 微粒  | 黄褐色  | 黄褐色     | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | 内径<br>(18.6) | -  | -      | -      | 口唇部欠損、破片、口縁上面を平坦面にし、内面は三角形に突出させている。                      |
| 4        | ◆                | SK-8             | 壺        | 石英粒         | 細粒  | 暗茶褐色 | 暗茶褐色    | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | -            | -  | -      | -      | 口縁部の破片、口唇部を肥厚し、外面に山形文様を呈している。口縁部内面は三角形に突出させ上面を平坦面にしていてる。 |
| 5        | ◆                | SK-3             | 甕        | 石英粒         | 細粒  | 黄色   | 黄色      | ヨコナデ           | ヨコナデ<br>刷毛目           | (23.6)       | -  | -      | -      | 下城式土器口縁部の破片、突帯にキザミ目有り                                    |
| 6        | ◆                | SK-4             | 甕        | 石英粒         | 微粒  | 黄色   | 黄色～黒色   | ナデ<br>指オサエ     | ヨコナデ<br>刷毛目           | (26.6)       | -  | (24.2) | -      | 破片、外面カーボン付着。(黒斑)く字に外反する口縁部で口唇部は凹みを持つ。                    |
| 7        | ◆                | SK-19            | 甕        | 角閃石<br>石英粒  | 微粒  | 茶褐色  | 茶褐色     | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | (16)         | -  | -      | -      | 破片                                                       |
| 8        | ◆                | SK-1             | 甕        | 角閃石<br>石英粒  | 微粒  | 黄褐色  | 黄褐色     | 刷毛目            | ヨコナデ                  | (24)         | -  | -      | -      | 破片                                                       |
| 9        | ◆                | SK-1             | 鉢<br>(脚) | 長石粒<br>石英粒  | 微粒  | 黄褐色  | 黄褐色     | ヨコナデ           | 刷毛目                   | -            | -  | -      | (9.6)  | 破片、上部が欠損しているため、鉢形か変形の脚の一部と思われる。                          |
| 10       | ◆                | SK-3             | 壺        | 石英粒         | 微粒  | 暗黄褐色 | 暗黄褐色    | ヨコナデ           | 刷毛目<br>ミガキ            | -            | -  | -      | -      | 頸部の破片                                                    |
| 11       | ◆                | SX16             | 甕        | 角閃石<br>長石粒  | 細粒  | 黒色   | 黒色      | ヨコナデ           | ヨコナデ<br>加工による<br>ナデ   | (34.6)       | -  | (30.6) | -      | 破片、口縁部ははね上げ口縁。                                           |
| 12       | ◆                | SX16             | 甕        | 角閃石<br>石英粒  | 微粒  | 暗黄褐色 | 黒褐色～暗褐色 | ヨコナデ<br>ミガキ風ナデ | ナデ                    | (17)         | -  | -      | (4.5)  | 破片、口縁部、胴部、底部共に同一個体である。外面カーボン付着。                          |
| 13       | ◆                | SK-14内<br>SX     | 甕        | 石英粒         | 細粒  | 暗茶褐色 | 暗茶褐色    | ヨコナデ<br>ミガキ風ナデ | 刷毛目<br>ナデ<br>ヨコナデ     | -            | -  | -      | 7.6    | 1cmほど上げ底である。内・外面共にカーボン付着。                                |
| 14       | ◆                | SX33             | 甕        | 長石粒<br>石英粒  | 細粒  | 黒色   | 赤褐色     | ナデ             | クテナデ<br>ヨコナデ<br>指オサエ  | -            | -  | -      | (7.2)  | 外面指によるナデのためか指紋が残っている。破片、若干上げ底気味。                         |
| 15       | ◆                | SX36             |          | 石英粒<br>角閃石粒 | 微粒  | 暗茶褐色 | 暗褐色     | ヨコナデ           | クテナデ<br>クテミガキ<br>ヨコナデ | -            | -  | -      | (12.6) | 破片、上部欠損のため鉢形か変形の脚部と思われる。                                 |
| 16       | ◆                | SX37             |          |             | 微粒  | 黄色   | 黄色      | ヨコナデ           | ヨコナデ                  | -            | -  | -      | (9.4)  | 破片、小形の脚部                                                 |

## 2) 溝状遺構 (SD)

SD-1、2は、当調査区の東側隅に半分のみ検出しているが、調査区外については作業工程上、擁壁工事を優先させるため、溝 (SD-2) の東側半分については平面の上場線のみを確認した。また、SD-1、2が位置している部分はもともと畑地の境界であり、丁度SD-1、SD-2と方向をN-20°-Eと同様に掘られている。現在も境界溝として使用していた。

SD-1は、SD-2の西側に幅150cm、現状の深さ20cmを測り、断面形は弧状を呈しており、土層観察では軟質の黒褐色土層であった。SD-2は、幅4m現状の深さ1mを測り、断面形は逆台形状を呈している。土層観察では、暗黒色粘質土層、黄茶褐色土層、茶褐色土層、黄褐色粘質土層からなっている。

遺物は、SD-1では寛永通寶1点、染付、陶磁器類の破片が数点検出している。SD-2では、流れ込みで弥生時代中期の土器破片が混入しており、溝の基底部より中世の播鉢、白磁、青磁、土師器等片が数点検出している。

このSD-2の延びを敷地内北側で確認作業を行ったが、溝の延びは見られず、西側では小谷間がはじまるため、溝は東側の現在ミカン園になっている方向へと曲がると思われる。丁度40~50m四方の敷地になっている。

この場所は、中世の豪族居館跡が存在する様な小字名もないが、栗流と小路の字名がある。また、当遺跡の北側、小池原地区には、尾崎遺跡の中世建物群と千歳城跡である山城が所在しており、これらとの関連性のある中世の溝状遺構であり、この地域で重要な位置を示していると思われる。

また、今後の調査の広がりによって中世遺跡の不明瞭な部分が明らかになっていくと思われる。

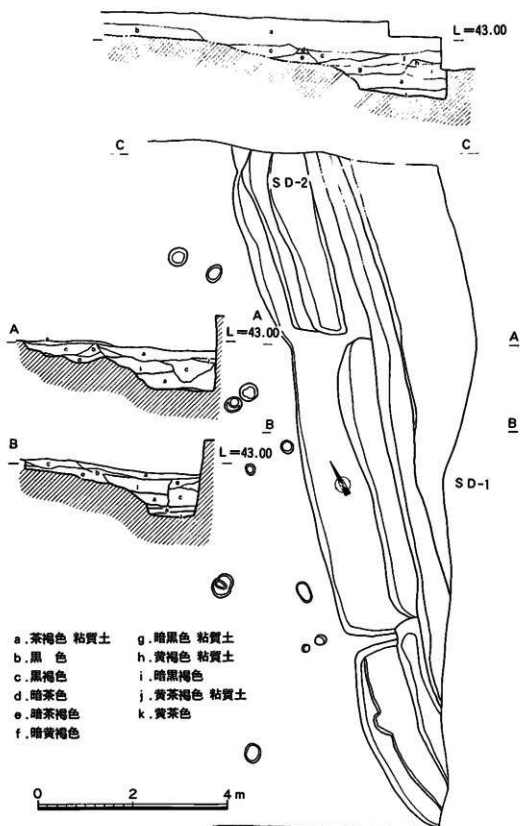
註1. 「尾崎遺跡」大分市教育委員会 1984

註2. 豊後国志 巻之四

『千歳城、在高田郷千歳村、吉岡宗親築以居焉』

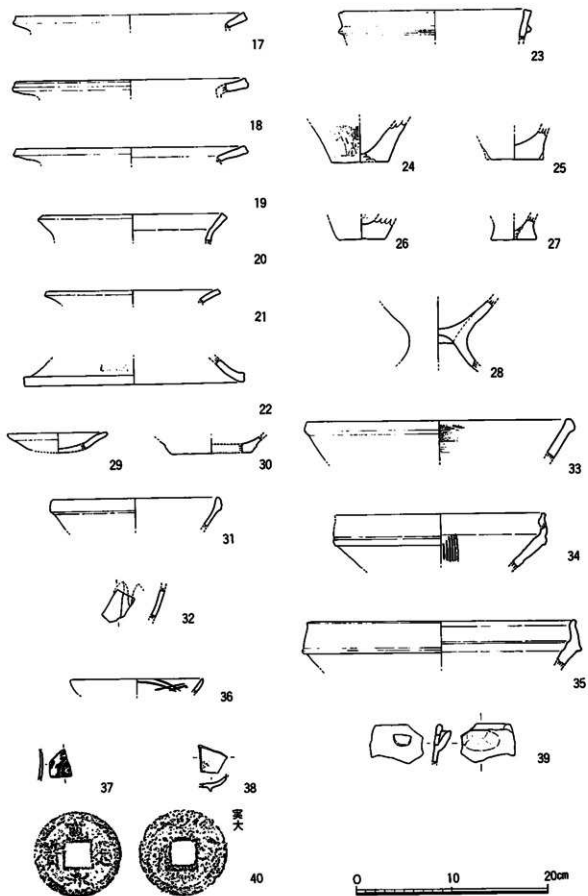


e. SDの全景 (南より)



第10圖. SD-1. 2 平面、断面実測圖 (1/80)

SD内遺物



第11図. SD内遺物実測図 (1/4)

表4 遺物一覧表 (SD内遺物)

| 遺物<br>番号 | 順回番号 | 出土区出土遺物 | 器種   | 胎土              |    | 色調    |        | 器面調整        |                 | 法量     |    |       |       | 備考                                   |
|----------|------|---------|------|-----------------|----|-------|--------|-------------|-----------------|--------|----|-------|-------|--------------------------------------|
|          |      |         |      | 混和材             | 粒子 | 内面    | 外面     | 内面          | 外面              | 口径     | 器高 | 胴部最大径 | 底径    |                                      |
| 17       | 11   | SD02    | 甕    | 長石粒             | 微粒 | 赤褐色   | 赤褐色    | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (24.6) | —  | —     | —     | 破片、口縁部。                              |
| 18       | *    | SD02    | 甕    | 角閃石粒<br>石英粒     | 微粒 | 暗黄色   | 黒褐色    | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (24.8) | —  | —     | —     | 破片、口縁部、外面にカーボン付着あり、<br>口唇部は若干はね上げ気味。 |
| 19       | *    | SD02    | 甕    | 角閃石粒            | 微粒 | 暗黄色   | 暗黄色    | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (24.6) | —  | —     | —     | 破片、口縁部、口唇部外面に凹みがある。                  |
| 20       | *    | SD02    | 甕    | 石英粒             | 微粒 | 暗黄色   | 暗黄色    | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (19.8) | —  | —     | —     | 破片、口縁部でゆるやかに外反する。                    |
| 21       | *    | SD02    | 甕    | 石英粒             | 微粒 | 黄色    | 黒色     | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (18.4) | —  | —     | —     | 破片、口縁部外面カーボン付着。                      |
| 22       | *    | SD02    | 蓋?   | 石英粒<br>角閃石粒     | 微粒 | 赤褐色   | 赤褐色    | ヨコ<br>刷毛目   | 刷毛目後ナデ<br>ヨコナデ  | (23)   | —  | —     | —     | 破片、上部が欠損しているため、胴部の<br>可能性もある。        |
| 23       | *    | SD02    | 甕    |                 | 微粒 | 淡黄色   | 淡黄色    | ヨコナデ        | ヨコナデ            | (20)   | —  | —     | —     | 破片、下縁式変形土器突帯にキザミ目がある。                |
| 24       | *    | SD02    | 甕    | 石英粒<br>角閃石粒     | 微粒 | 暗茶褐色  | 黒褐色    | ナデ          | 刷毛目<br>刷毛目によるナデ | —      | —  | —     | (6)   | 破片、変形土器の底部で平底。                       |
| 25       | *    | SD02    | 甕    | 石英粒             | 微粒 | 黄色    | 黄色     | ナデ<br>指ササエ  | ヨコナデ            | —      | —  | —     | (6)   | 破片、底部は平底である。                         |
| 26       | *    | SD02    | 甕    | 石英粒             | 微粒 | 黒色    | 淡黄色    | ナデ          | ナデ              | —      | —  | —     | 5     | 破片、底部は平底である。                         |
| 27       | *    | SD02    | 甕    | 長石粒<br>石英粒      | 微粒 | 茶褐色   | 茶褐色    | ナデ          | ヨコナデ            | —      | —  | —     | (4.6) | 破片、小形の甕底部で平底である。                     |
| 28       | *    | SD02    | 甕    | 石英<br>角閃石       | 細粒 | 黒褐色   | 赤褐色    | ミガキ<br>タテナデ | ナデ              | —      | —  | —     | —     | 破片、甕の脚部。                             |
| 29       | *    | SD02    | 皿    |                 | 微粒 | 淡黄色   | 淡黄色    | —           | —               | (10.5) | —  | —     | —     | 破片、土師器小皿。                            |
| 30       | *    | SD02    | 坏    |                 | 微粒 | 黒褐色   | 黄褐色    | —           | —               | —      | —  | —     | (8.6) | 破片、土師坏底部で糸切底。                        |
| 31       | *    | SD02    | 碗    |                 |    |       |        |             |                 | (17.6) | —  | —     | —     | 破片、白磁碗で口縁部は玉縁がある。                    |
| 32       | *    | SD02    | 碗    |                 |    |       |        |             |                 | —      | —  | —     | —     | 破片、青磁碗で鋸歯弁文。                         |
| 33       | *    | SD02    | ねり鉢  |                 |    | 淡灰色   | 淡灰色    | ヨコ<br>刷毛目   | ナデ              | (27.6) | —  | —     | —     | 破片、瓦質土器鉢口縁を肥厚している。                   |
| 34       | *    | SD02    | 楕鉢   |                 | 精製 | 明茶褐色  | 明茶褐色   | ロクロナデ<br>楕鉢 | ロクロナデ<br>楕鉢     | (22)   | —  | —     | —     | 破片、楕鉢6本単位。備前。                        |
| 35       | *    | SD02    | 楕鉢   |                 | 精製 | 灰色    | 灰色     | ロクロ<br>ナデ   | ロクロ<br>ナデ       | (28)   | —  | —     | —     | 破片。備前。                               |
| 36       | *    | SD01    | 皿    |                 |    | 乳白色・染 | 乳白色    |             |                 | (14)   | —  | —     | —     | 破片、内面に斜格子文を有している。肥<br>前染付。           |
| 37       | *    | SD01    | 皿    |                 |    | 乳白色   | 乳白色・染付 |             |                 | —      | —  | —     | —     | 破片、中国磁器、16c頃。                        |
| 38       | *    | SD01    | 皿    |                 |    | 淡緑色   | 淡緑色    |             |                 | —      | —  | —     | —     | 破片、クローム青磁、明治10年以降。                   |
| 39       | *    | SD01    | 行平   |                 |    | 淡茶色   | 淡茶色    |             |                 | —      | —  | —     | —     | 破片、関西系陶器、18c後半～19c前半。                |
| 40       | *    | SD01    | 寛永通寶 | 直径2.3cm 高さ2.1cm |    |       |        |             |                 |        |    |       |       |                                      |

## IV. まとめ

当遺跡は、以上のように報告したとおりマンション建設により削平を受ける部分だけの調査のため、調査区の範囲が限られており、また、調査区が位置する場所は周知の猪野遺跡からみると断片的なものであり、その全容を把握することは不可能な状況の中で弥生時代中期から後期初頭にかけての貯蔵穴12基、土壇墓4基、土器蓋土壇墓1基、用途不明の土壇5基と中世の溝状遺構1条、近世、近代の溝状遺構1条+αの遺構と大小の柱穴群を検出している。今回の調査では、集落としての住居跡の存在は不明であるが、調査区の西側で柱穴群の中で円形を描くように見えるものもあるが、住居跡としては理解できない。

土壇（SK）内より出土した数少ない遺物からみるとSK-1、6、12よりは、鵜先状に類似する口縁部を有す壺形土器とSK-3から下城式土器等は弥生時代中期に比定できる。また、SK-8からは尾崎遺跡でのⅢ期に属するものと思われる。口縁部の外面を肥厚され、山形（八字）状に施文を行なっているもの、SK-4での壺形土器やSK-11の土器蓋土壇墓に使用された、壺形土器等が弥生時代後期初頭に比定できる。

この様に弥生時代の中期から後期初頭にかけての数少ない遺跡であることがわかった。また、今回注目される遺構としては、中世の溝状遺構である。全体の把握は出来ないが、猪野遺跡の周辺には数少ないが中世の遺構を検出している。まず、尾崎遺跡では、南東部の舌状先端部（現状は明治北小学校のプール建設地）に4棟の掘立建物跡を検出している。ほぼ長軸の方位は、N-70°-Eに向けており、並列しており大きな建物としては、南北2間、東西5間の約3.8m×10.3mを測る。北側に庇をもつものであった。また、尾崎遺跡の北東側に千歳城跡があり、「豊後国志」巻之四「古蹟」に千歳城、在高田郷千歳村。吉岡宗親築以居焉。と記されており、平成5年に宇土井ノ内の場所を調査しており、遺構の存在は、土塁遺構と溝状遺構を確認している。この遺構は、調査区の西側に方位をN-45°-Eに向けており、土塁遺構の遺存状況は基底部で幅6.4m、現高0.6mを測る。断面形状は台形を呈している。盛土は版築状に積み上げているが、すでに削平を受けていることがわかる。また、基底部の大きさから復元高は4m以上であることが考えられる。

土塁の東側に隣接して掘られた溝状遺構がある。溝状遺構の大きさは幅2.2m、深さ1.2mを測る。断面形状は逆台形を呈している。この様に、千歳城跡は土塁と溝状遺構により区画された居館である可能性をもっており、猪野遺跡の中世遺構は、尾崎遺跡や千歳城跡等と関連性をもった遺跡であり注目値するものであろう。これまでは、古くから周知されている猪野遺跡であったが、その実体は不明な点が多かったため、その性格を知る上で、今回の調査によって基礎資料として把握できたが、さらに遺跡の解明と周辺部の遺跡との関連性を踏まえながら、点から面へと広がりをもたせていかなければならないであろう。

註1. 大分市教育委員会調査による

# V. 付 章

## — 中 世 の 猪 野 —

秦 政 博

猪野は中世、高田荘に所屬した地域である。高田荘域の古代律令制下における所屬の郷は未詳であるが、跡部郷の範圍であつたかとの推論もある（『豊後国莊園公領資料集成五（下）』）。

高田荘は現大分市の東部寄り、大野川の左岸鶴崎から西へ下部に接する範圍に成立した莊園である。「豊後国図川帳」によれば弘安八年（1285）当時庄域は200町あり、このうち180町は城興寺が領家となり地頭職は三浦介が帯していた。また残る20町は領家として三浦介が、地頭は牧三郎惟行（法名念昭）と木付能重とが争論中であるとする。猪野名は所在の範圍から高田荘の本荘180町分に含まれるものと思われるが、この当時領家であつた城興寺は、もともと応徳2年（1085）京都九条北島丸西に、藤原道長の孫にあたる九条相国信長が建立の九条堂に由来するものである。本寺はのちに天台座主実雲法親王からその弟子明雲に伝領されて、さらに後白河院から後鳥羽天皇へと伝えられたのち、青蓮院の管領するものとなった。取

一方、地頭三浦介は鎌倉幕府創業の重臣である義澄の系を引く三浦一族で、義澄の孫義村の時、宝治合戦（宝治元・1247）において北条時頼と安達氏の排斥に抗して敗北した三浦一族のうち、これに加担しなかった盛運の子盛時が三浦介を継いだもので、図川帳の人物は盛時の子盛盛と思われる（前掲書）。

さて、高田荘内において「猪野」が見える史料は現在のところ三点しか存在しない。時期は前後するが、高田荘の下地組織の全貌が判明するのが天正5年（1577）12月15日付の「高田庄閭別調帳」においてである（作原八幡宮文書）。これによれば高田庄は次表のように、門田名など10名と徳丸村、猪野村の2村から成り立っていることがわかる。

高 田 荘 の 下 地 組 織

| 名・村      | 門田名    | 別保名    | 成松名     | 徳丸名     | 徳丸名 | 徳久名 | 猪野名  | 猪野名 | 用分名  | 三川名   | 藤嶋名  | 種具名  | 牧村             |
|----------|--------|--------|---------|---------|-----|-----|------|-----|------|-------|------|------|----------------|
| 在地領主（給人） | 狭間田氏   | 大久保氏   | 徳丸氏・平林氏 | 徳丸氏・中村氏 |     |     | 大久保氏 |     |      | 大久保氏  | 後藤氏  | 種具氏？ | 牧進行（念昭）・木付能重相論 |
| 現在地比定    | 大字皆春・森 | 大字皆春・森 | 大字松岡    | 大字下徳丸   | 同右  |     | 大字猪野 | 同右  | 大字高松 | 大字三ツ川 | 大字鶴崎 | 大字種具 | 大字牧            |

「豊後国莊園公領史料集成五（下）」（渡辺澄夫氏）より引用。

このうち徳丸・猪野の両村はおそらく徳丸名・猪野名と同一のものとみてさしつかえないと思われる。各名の成立や伝来の経緯については全く未詳であるが、戦国期には大友氏の被官となった給人（徳丸・中村・種具氏など）の給地となってそれぞれの活動の経済的基盤を構成していったことはまちがいない。

猪野の史料上の初見は、大久保氏本地坪付注文（大久保文書・16世紀前半）においてである。「一所高田之内庄内三川名百貫」の次に「一所同庄猪野字（以下脱アルカ）」とあるのがそれである。次いで、天文2年（1533）6月18日付の高田荘指野日内三貫分坪付注文（平林文書）によれば、以下のような記載がみられる。

(猪野名カ)  
高田庄指野日之内三貫分坪付之事

|                                                                                                                                            |        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 合 田<br>小湫山 一所一段小<br>二目河 一所一段南ノより<br>庄内 一所二十四分 保頭給<br>合 畠地<br>むかえ畠 一所一段南ノより<br>松原 一所一段六十分<br>つね行くち 一所一段<br>以上此間、田畠五段半女四分<br>天文二年ミツのとの 六月女八日 | 長家（花押） |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|

当文書では「指野目」とあるが、これが猪野名であることはまちがいない。その傍証の一つとして字にみえる「二目河（二目川）」「松原」は現在の大字横尾字二目川や大字猪野字松原の地を指すものと思われる。そうであれば、猪野名の範囲は、大字横尾の地域までを含んでいたものと推定される。3貫分の内訳は田が2段144歩、畠が3段60歩で、畠地勝ちの地であることは、自然の湧水を灌漑の中心としていた当時からすると、現況の地勢を考えたもうなづける様子である。

また、この坪付注文の発給者は「長家」という人物であるが、残念ながらこの人物についての具体像は不明である。しかし、この文書が平林文書として伝来されている経緯からすると、ある時期から毛井村平林氏が猪野名を管轄していたことも推察され、当名の給人の一人として平林氏を挙げることも可能ではなかろうかと思われる。

今次の発掘調査によって猪野名内のはじめての中世の溝遺構が発見されたことは、猪野名の名主クラスまたは大友被官化の給人クラスの在地領主の存在をうかがわせる一端でもあり、今後の同地域内における歴史考古学的な解明が期待される。



重機による表土剥ぎ、遺構検出状況（南より）



遺構検出状況（北東より）



遺構検出状況（東より）



遺構発掘風景（東より）



遺構完掘状況（東より）



遺構完掘状況（北西より）



遺構完掘状況（南東より）



遺構完掘状況（北より）



SK-1. 2 (北より)



SK-3. 4 (北より)



SK-1. 2. 3. 4 全景 (南より)



SK-6. 7. 8. 9 全景 (北より)



SK-14 (西より)



SK-17. 18 全景 (東より)



SK-16 (東より)



SK-21 (南より)



SK-10. 14 (南より)



SK-10. 11. 12. 14. 15 全景 (北より)



SK-10. 11. 12. 14. 15 (西より)



SK-19 (北より)



SK-13 (北より)



SK-19土層断面 (南より)

図版 4 遺 構



SD-1, 2 遺構検出状況 (南より)



SD-1, 2 完掘状況 (南より)



SD-1, 2 土層断面、発掘状況

圖版 5 出土遺物



SK-11



4



5



6



10



13



15



35



34



24



28



25



26



33



31



32



38



37



36



39



寬永通寶

40



### 文化財愛護シンボルマーク

ひろげた両手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱(ますぐみ)のイメージを表し、これを三つ重ねることによって、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

(昭和41年5月26日決定)

## 猪 野 遺 跡

発掘調査報告書

平成6年3月31日

発行 大分市教育委員会

印刷 有限会社いづみ印刷社